

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2023.1 January vol.61

十一月定例議会

不登校児童生徒が増加

行きたいと思える学び場の確保

コロナ禍の中、不登校児童生徒数が過去最多を記録しています。学校に行けない子、学校に行っても教室に入れない子、行きたいけどなぜか家から出られない子など様々ですが、学びたいと思ったときに学べる場をどう作っていくかを考えるときにきています。

不登校児童生徒の学びの場

10月27日に発表された文部科学省の児童生徒の不登校等に関する調査報告書では、小学生の不登校児童生徒数は24万4,940人で過去最多であり、島根県でも前年度から268人増の1,551人で過去最多でした。

国では教育機会確保法により、子どもたちの教育機会の確保等に関する施策の推進が求められています。島根県の取り組みを質しました。

この中で、不登校児童の学びの場づくりに取り組みむ東京都あきる野市で私塾「いもいも」を主宰する井本さんの言葉にふれました。

井本氏いわく、「その子のいいところを伸ばす」という表現

がそもそも違う。いいところ

断がはいっているから。あり

のままその子を素敵だな、面

白いなって思えばいい。その

子がそのままだめなわけが

ない。その子はそのままでか

けがない価値がある。それ

れに気づけるかどうかはその

子を見る大人の側の問題で

す。変わらなければいけない

のは大人です。」と。

子どもたちが学ぶ場をどう

作っていくか、教室には入れな

くても子どもたちが学びたい

と思ったときにそれに応えう

る学校とはどういったものか

子どもにとっていろいろな選択

肢を提供できる社会でありたい

と感じました。

それに対して知事は「学校

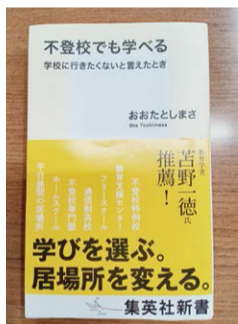


一音一答で質問

に行きたくてもいけ
ない子に安心して通
うことができる学校
づくりをしていくう
えで、子どもたちに向
き合って丁寧に取り
組むことが重要で、周
囲の大人もそういう理解をし
ていくことを通して必要な環
境を整えていくことが必要
と答えられました。県内には、
千五百人以上の不登校児童生
徒がおり、学びたいと思うす
べての子どもに学べる環境を
作っていくことが大事です。

不登校でも学べる

今回の不登校の問題につ
いて取り組む際に読んだ本
があります。教育ジャーナリ



参考にした本

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

3年近くに及ぶコロナ禍や、ロシアのウクライナ侵攻などの影響を受けた物価高騰により、私たちの生活は厳しさを増しています。このような中で新年を迎えましたが、どんな時でも安定した生活が続けられる社会、誰もが笑顔で暮らせる島根でなければなりません。

今年4月には、県議会議員選挙があります。これまで皆様のご支援のもと、4期16年活動が続けることが出来ました。これからも皆様の声をしっかり受けとめて、県政に生かしていく活動が続けてまいります。引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



性教育についてユネスコでは「包括的性教育」を提唱しています。包括的性教育とは、
1. 人間関係 2. 価値観・人権・文化・セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解 4. 暴力と安全確保 5. 健康とウェルビーイング(幸福や喜び)のためのスキル 6. 人間のからだの発達 7. セクシュアリティと性的行動 8. 性と生殖に関する健康の八つの主要概念をもとに、それらを繰り返して学び続けていくというものです。

性教育についてユネスコでは「包括的性教育」を提唱しています。包括的性教育とは、
1. 人間関係 2. 価値観・人権・文化・セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解 4. 暴力と安全確保 5. 健康とウェルビーイング(幸福や喜び)のためのスキル 6. 人間のからだの発達 7. セクシュアリティと性的行動 8. 性と生殖に関する健康の八つの主要概念をもとに、それらを繰り返して学び続けていくというものです。

勤続15年表彰

全国知事会から15年勤続の自治功労表彰を受けました。民主県民クラブでは3人が表彰を受けました。



表彰を受けた会派の3人で

マイナンバーカードについて、政府は10月13日、現在使われている健康保険証を2024年の秋に廃止し、マイナンバーカードへ一体化した形に切り替えることを発表しました。これまで任意であった保険証との一体化だった方針が急に変わり、県民や医療機関なども困惑しています。

マイナンバーカードの交付数は11月末現在全国で53.9%、島根県で54.8%。そのうち保険証と一体化しているのは全国で48.0%と全体の約4分の1程度。また、マイナンバーカード保険証が県内医療機関等で利用できるのは、病院で63.0%、医師診療所で15.4%、歯科診療所で39.3%、薬局で68.3%という状況です。

マイナンバーカードがなければ生活できない状況が広がっていくことに対応できない人や利用できない医療機関・薬局等があるなど、課題が整理されないままに進められていくことに不安を覚える人も多く、デジタル化を進めていくことへの十分な説明と理解を得ることが必要です。

じめ県民の皆さんの声がかさされる県政の実現に努力してまいります。

発行者 角 智子 〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信

会派県外調査

中山間地域の人づくり まちづくり

10月18～19日の2日間、民主県民クラブの県内調査を中国山地沿いに行い、安芸太田町、北広島町、川本町などの人づくり、まちづくりについて調査しました。

安芸太田町では、人材育成・交流センターの整備や生涯活躍のまちづくりの取り組みについて、北広島町大朝では大朝交通が取り組む地移動と観光を軸にした地域活性化について、川本町では長期滞在施設シーピースについて調査を行いました。

安芸太田町人材育成・交流センター

寮を住民との交流の場に

安芸太田町では、加計高校の生徒寮が老朽化したことに伴い、60名収容できる生徒寮をこの春人材育成・交流センターとして整備しました。子どもが人口が減る中、高校の存続が危ぶまれ、地域外、県外からの生徒を受け入れることで定員を確保していましたが、年々町内以外からの生徒数が多くなり寮の不足と老朽化が問題となり、町民との交流も図れる施設として整備されました。

川本町も同様に町内にある中央高校の定数確保に町内以

外からの生徒を受け入れていますが、やはり生徒寮の確保が課題で、特に女子硬式野球部を創設したことにより女子生徒の入学が多くなり、町が女子寮として活用できる「まちごと魅力化センターPieces(シーピース)」を整備しました。県外からの生徒も地域の清掃や美化活動に参加するなど住民との交流に取り組んでいます。寮の整備にあたっては、財源として地方創生交付金と過疎債が使われています。本来であれば、いずれも県立高校ですの

で寮が整備すべき生徒寮ですが、高校の存続を願う地域として町内以外からの生徒受け入れるための寮の整備は喫緊の課題で、住民との交流が行われる機能を合わせ持つことで地域の活性化も図れる施設として、県の生徒寮の整備を待つことなく整備されています。

交通事業者の生き残り 観光による地域活性化

大朝交通では、住民の移動手段として公共交通を確保しなければならぬと、町内の交通事業者と一緒に大朝交通

鳥取・島根県議会合同研修会

型タクシーを使ったオンデマンド交通に取り組んでいます。また地域活性化にe-BIKE(電動アシスト機能を搭載したスポーツ自転車)を活用した町内を巡る観光プロジェクトに取り組んでいます。コロナ禍のアウトドア志向が高まっているなか、都会に近い自然豊かな地の利を生かした取り組みです。交通事業者として、住民の移動手段確保のために生き残りを図るために、観光による地域活性化に取り組まれています。島根でも中山間地域の住民の移動手段確保に取り組んでいます。持続可能な交通手段として交通事業者によるバスやタクシーの存続を図る取り組みが必要です。

を形成する上でも芸術文化は必要不可欠と、鳥の劇場主宰者の中島諒人さんからお聞きしました。続いて、かつては地域の一大産業であった和傘「淀江傘」も洋傘の普及で廃れてしまった伝統工芸を地域の若い人たちに伝える活動を続けている米子市淀江町の「淀江傘伝承の会」で取り組みをお聞きしました。いずれも活動を通して地域づくり、人づくりにつながっています。



バイクステーションで説明する大朝交通社長と社員

脱炭素社会を目指す米子市

米子市では、JR西労組と山陰の鉄道の乗降客数の減少で存続が危ぶまれているローカル線を取り巻く状況をお聞きし今後の取り組みについて意見交換を行いました。

また、ローカルエナジー(株)では再生エネルギーの売電事業によって脱炭素先行地域の持続可能なまちづくりの取り組みを伺いました。また、米子市下水道処理施設で、下水の汚泥から発生する消化ガスによる発電施設の見学を行い、米子市における脱炭素の取り組みについて学びました。

鳥取・島根県議会合同研修会 隠岐4町村で調査

10月31日～11月1日に、離島における課題解決や中長期的な視点に立った地域の維持活性化策について、隠岐4町村に出かけ、現地視察や意見聴取などの調査を行いました。

隠岐の島町では、池田町長はじめ役員職員から、人口減少による課題解決の取り組みや、石油製品流通施設の現状などについて意見交換を行いました。また、隠岐ゲートウェイで隠岐ジオパーク推進機構から、観光地域づくりについて聴取調査をしました。

西ノ島町では、升谷町長はじめ役員職員から、高齢化による課題や離島振興の取り組みについて調査しました。また、焼火寮を訪問し、町の協力を得て元地域おこし協力隊の二人の

女性に事業継承を行った取り組みについて聞きました。知夫村では平木村長はじめ役員職員から移住者による新たな事業創出などの状況を聞きました。

海士町では大江町長はじめ役員職員から、人材確保の観点からの課題と取り組み、海士町副業協同組合などについて聴取調査を行いました。

隠岐諸島

お詫び

11月22日付けの地元新聞で旧統一協会及び関連団体との関係について県議会議員にアンケート調査された中で私が関係していたことを報道されました。このことについて、皆様にご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。この紙面に掲載させていただきます。

報道にあったように、旧統一協会の関連団体とされる世界平和女性連合の主催する講演会やバザーに参加したことがありますが、この団体の活動に参加している知人から、国連NGO団体として開発途上国の女性の地位向上に向けて支援活動をしているというところで講演会等の案内がありました。参加してみると地域で活動されている著名な女性もおられ、各地で活躍されて

いる方の講演会や、手芸品の販売や地域の演奏家のコンサートなどのバザーを開催されており、誠実に活動されている印象でした。

この間、宗教的な話や勧誘があったことはなく、また政治的な働きかけもありませんでしたので、信頼しきっておりました。安倍元首相の襲撃事件以来、世界平和女性連合が旧統一協会の関連団体として報道され、私も困惑しているところですが、この団体主催の会に、私が参加したことが報道され、皆様にご多大なるご心配をおかけしましたことについて深くお詫び申し上げます。なお、旧統一協会の活動に参与したことはなく、当該関連団体とは今後一切関係を断つことをお誓い申し上げます。

角 智子

鳥の劇場について説明する中島さん

誰のための改革かを考える 鳥根県議会「民主県民クラブ」と鳥取県議会「会派民主」が毎年合同で行ってきた研修会もコロナで中断していましたが、10月25～26日に3年ぶりで鳥取側の開催で行いました。

鳥取市鹿野町では、「鳥の劇場」にて、「21世紀山陰に芸術は不要か？」と題して、人間力

下水道消火ガスによる発電施設の説明をする米子市職員

鳥取市鹿野町では、「鳥の劇場」にて、「21世紀山陰に芸術は不要か？」と題して、人間力